

サビ・アーク処理 施工手順

■施工方法

1 サビ汚れ施工前

施工前の状態



2 調色

Cリペカラーを躯体に合った色に調色し、目立たない部分を使って確認しましょう。
*Cリペカラー同士やトーンカラーを使って調整します。



3 吹付け

サビ汚れ部分に薄く吹付けましょう。一度に濃く吹かないように注意が必要です。



4 確認

乾かして確認しましょう。
サビが消えるまで吹付け→乾燥→吹付けを繰り返します。
時々#600ペーパーで軽くこすり、なじませます。



5 吹付け処理

サビが完全に消えました。



6 模様付け

トーンカラーで模様を付けて自然な風合いを復元しましょう。



7 施工完了

サビ汚れが消え、自然な仕上がりになれば完了です。



準備する物

- 小バケツ
- 刷毛
- 耐水ペーパー#600
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ

準備する材料

- Cリペカラー
- トーンカラー
- 水

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

ピンホール個別処理施工手順

■施工方法

1 ピンホール施工前

リペレジをボウルでやや硬めに練り上げます。



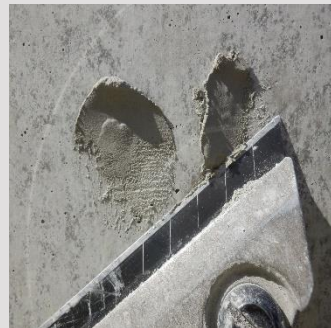
2 補修材充填

ピンホールにリペレジを塗り込み、盛り付けたまま乾燥させます。



3 スクレーパー処理

リペレジが半乾きになるのを確認し、スクレーパーで余分な材料を削り落とします。



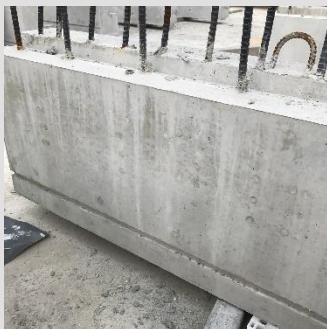
4 表面処理

完全に乾燥後、ペーパーで軽く擦り周囲と合わせます。



5 完成

完成です。



準備する物

- 練り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- 小バケツ
- 刷毛
- ガストーチ

準備する材料

- リペレジ
- 水

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

ピンホール・密集してる箇所の処理 施工手順

■施工方法

1 ピンホール施工前

補修箇所をセメント用プライマー、又は水を塗布し、リペレジを柔らかく練り上げます。



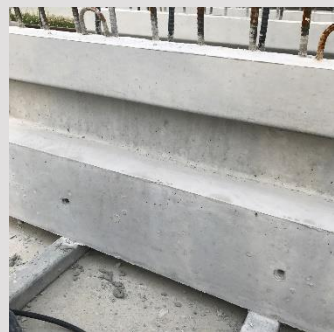
2 補修材充填

リペレジを塗り用金コテで一気に塗り込みます。この際、一度では気泡の奥まで材料が入りにくいので、上下左右とコテで詰め込むように塗りましょう。



3 平坦処理

リペレジが乾ききる前にスクレーパーで余分な材料を削りコンクリート面を露出させます。
*グラインダーを使うときは完全硬化させてから削ります。



4 表面処理

#600ペーパーを使い削り跡等の余分な材料を擦り落とします。



5 完成

周囲と違和感がなくなれば完了です。
*色合わせが必要な時は⑥へ下地の状況によりCリペライニングを塗ります。



6 吹付け処理

周囲の色と合わせたCリペカラーを吹付けていきます。少しずつ乾かしながら吹き重ねていきましょう。



7 模様付け(完成)

必要に応じて模様をつけて完了です。



準備する物

- | | | |
|--------------|-----------------|-----------|
| ● 練り用金コテ | ● 小バケツ | 状況により |
| ● 塗り用金コテ | ● 刷毛 | ● ワグナー |
| ● ボウル | ● ウエス | ● コンプレッサー |
| ● スクレーパー | ● ガストーチ | ● エアホース |
| ● 耐水ペーパー#600 | ● ブロワー | ● エアガン |
| ● ワイヤブラシ | ● グライNDER | ● 模様付けパット |
| | ● 平面研磨砥石#36・#80 | |

準備する材料

- リペレジ
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの等）
- 水

状況により

- Cリペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー

■ 施工の注意点

- リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

クラック 擦り込み処理 施工手順

■施工方法

(箒目の場合)

1 施工前

施工前の状態



2 補修材状態

リペレジを固めに練る。
(パサパサ状になるように)
*柔らかい状態だとシミのよう
になるので注意しましょう。



3 擦り込み処理

リペレジを適量指先に取り、
クラック部分に擦り込んでいく。
*必ず素手で擦り込みましょう。
*クラックに対して垂直に塗り
込むと上手く埋まります。



4 削り

リペレジを埋め終わったら、
ワイヤーブラシ（ステンレ
ス）等で余分なリペレジを取
り除きます。



5 乾燥

リペレジを乾かします。



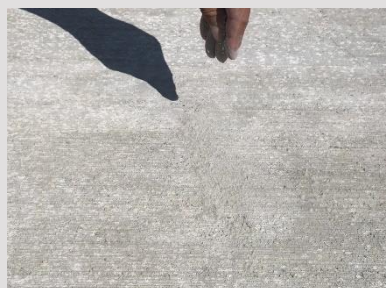
6 仕上げ(1)

左官ブラシを使って削りカス
を補修箇所にも馴染ませるよう
に掃いていきます。
*クラックが消えれば完了です。
*消えていない場合は7へ。



7 仕上げ(2)

リペレジを粉末状態でクラッ
クに沿って振りかけていきま
す。



8 仕上げ(3)

左官ブラシを使って振りかけ
たリペレジを補修箇所にも馴染
ませるように擦り込んでいき、
クラックが消えれば完了です。
*消えない場合は、7から繰り
返します。



9 完了

施工後の状態



準備する物

- 練り用金コテ
- ボウル
- ウエス
- ガストーチ
- ワイヤブラシ（真鍮）
- 左官ブラシ

準備する材料

- リペレジ
- 水

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 段差の無いクラックへの擦り込みのみの処理になりますので段差がある場合や止水する場合は、予め止水処理を行うか別項目にあるVカット処理を参考にしてください。

V カ ッ ト 処 理 施 工 手 順

■ 施工方法

1 クラック施工前

施工前の状態



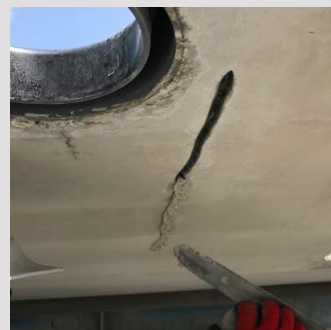
2 グラインダーでVカット

ひび割れに沿ってVカットしていきます。



3 樹脂系補修材処理

ワイヤブラシ、ブロウ等で完全に埃を取り除き樹脂プライマーを塗布する。樹脂モルタルを空気が入らないように周りより1mm程高く充填します。



4 表面処理

2時間程経ち完全に硬化したのを確認します。
硬化したら#36の砥石で周囲とフラットになるように研磨します。



5 補修材処理

清掃後、セメント用プライマーを塗布しリペレジを塗ります。
細かな凹みを埋めるイメージです。



6 スクレーパー処理

リペレジが半乾きになると、スクレーパーで余分な材料を削り落とします。
削り残し等が無いようにペーパーで擦りましょう。



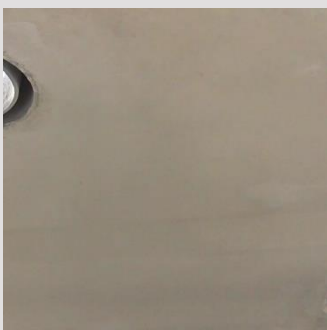
7 ライニング材処理

セメント用プライマーを塗りその上からCリペカラーを塗ります。
完全に乾燥させた後周囲との境界線をスクレーパー、#600ペーパーでなじませましょう。



8 吹き付け処理

最初はCリペカラーを少し吹付け、色を確認し乾燥させながら少しずつ吹き足していきます。
周囲との違和感なく下地が消えるとOKです。



9 模様付け

始めに#600ペーパーで表面をなじませます。
シミや模様をつけて周囲との違和感がなくなれば完成です。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グライNDER
- 砥石#16・#80
- Vカットダイヤ

準備する材料

- リペレジ
- Cリペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度希釈したもの等）
- 樹脂系補修材（アルプロンHMなど）
- 樹脂用プライマー（アルプロンW-301など）

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

欠 け 処 理 施 工 手 順

■ 施工方法

セメント系補修材を使った欠損補修

1 欠け施工前

施工前の状態



2 プライマー塗布

ホコリやごみを取り除き、セメント用プライマーを塗ります。



3 補修材の充填

少し硬めに練り上げたリペレジをコテで塗っていきましょう。
*指で“ノロ付け”するとさらに接着がよくなります。



4 盛り付けた状態

削って整える材料なので、仕上がり面より少し盛り上げて塗り、硬化するのを待ちます。
*夏場で2～3分程で硬くなり始めます。



5 成形

コテやスクレーパーを使い少しづつ削っていきます。
*完全に固まると削りにくいので注意が必要です。



6 乾燥と硬化

リペレジが十分に乾燥・硬化したことを確認したら、必要に応じCリペライニングを塗ります。
*写真のケースでは省いています。



7 吹付け処理

始めに少しだけCリペカラーを吹付けて色を確かめます。乾かしながら少しずつ吹き足していきましょう。



8 完了

周囲と違和感が無く、下地との境目が消えればOKです。必要に応じて模様を付けましょう。
*写真のケースでは省いています。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グライNDER
- 平面研磨砥石#36・#80

準備する材料

- リペレジ
- Cリペカラー
- トーンカラー
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの等）
- 水

状況により

- Cリペライニング

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

欠 け 処 理 施 工 手 順

■ 施工方法

樹脂系補修材を使った欠損補修

1 欠け施工前

施工前の状態



2 プライマー塗布

ホコリやごみを取り除き、樹脂用プライマーを塗ります。

*写真はアルブロンW-301を使用。



3 補修材の充填

少し硬めに練り上げた樹脂材料を塗り用金コテで塗っていきましょう。

*指で“ノロ付け”するとさらに接着がよくなります。

*写真はアルブロンHMを使用。



4 盛り付けた状態

仕上がり面より少し盛り上げて塗り、硬化するのを待ちます。



5 成形

#36の砥石を着けたグラインダーで少しづつ削っていきます。

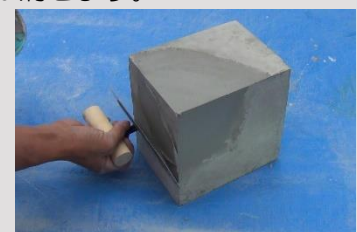
仕上がり面と完全にフラットとなるように削りましょう。



6 下塗りと削り

清掃後、セメント用プライマーを塗り、リペレジを薄く塗りましょう。リペレジが乾ききる前にスクレーパーを使って余分な材料を削り落とします。

この工程で大まかな凹みや傷が消えます。



7 下地調整

Cリペライニングで境目を無くし、質感を整えます。セメント用プライマーを塗り、補修部分を覆うようにCリペライニングを塗ります。乾燥後、#600ペーパーで余分な材料を落とします。



8 吹付け処理

少しずつCリペカラーを吹付けていきましょう。周囲と違和感が無く、下地との境目が消えればOKです。



9 模様付け

乾かしながら少しずつ模様を付けていきましょう。時々#600ペーパーでこすりながら作業を進めます。自然な仕上がりになれば完了です。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グライNDER
- 平面研磨砥石#16・#80

準備する材料

- リペレジ
- Cリペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの）
- 樹脂系補修材料（アルプロンHM等）
- 樹脂用プライマー（アルプロンW-301等）

■ 施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

断面修復後の表面処理 施工手順

■施工方法

1 施工前

施工前の状態



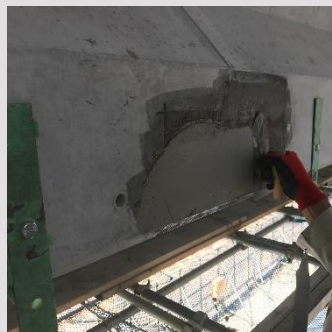
2 不陸研磨

ダイヤモンドカップ又は平面研磨砥石にて仕上がり表面レベルまで平坦に研磨します。
*仕上がり面より凸が無くなったのを確認しましょう。



3 補修材処理

リペレジで全体を覆うように塗ります。凹んだ部分や細かい隙間を埋めるイメージです。
*少し盛り付けるようにしましょう



4 補修材研磨

リペレジが半乾きになったらコテ・スクレーパーで削り落としましょう。
*写真は#80の砥石を着けたグラインダーを使用。



5 プライマー塗布

完全に乾いた後、セメント用プライマーを塗布します。
*垂れない程度に薄く塗りましょう。



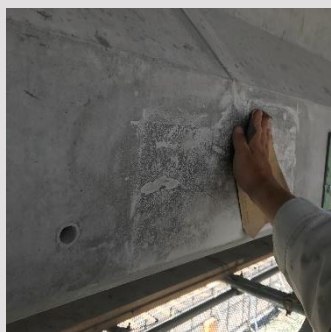
6 ライニング材処理

Cリペライニングを下地が透けるくらい薄く塗ります。下地が乾いてきて塗りにくい時は再びプライマーを塗りましょう。



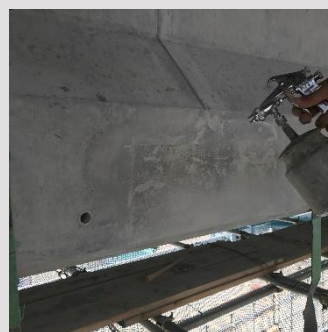
7 ペーパーがけ

完全に乾いた後、周囲との境目やコテ跡・バリをスクレーパーやペーパーで取り除き、細かな段差をなくします。



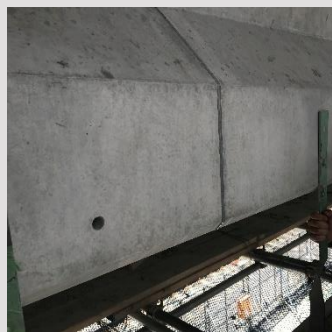
8 吹付け処理

Cリペカラーを少しだけ吹付けて色を確かめ、乾かしながら少しずつ吹き足していきます。周囲と違和感がなくなり、下地が消えるとOKです。



9 模様付け

シミや、模様を付けて周囲との違和感をなくします。シミや模様をつけて周囲との違和感がなくなれば完成です。



準備する物

- 練り用金コテ
- 塗り用金コテ
- ボウル
- スクレーパー
- 耐水ペーパー#600
- ワイヤブラシ
- 小バケツ
- 刷毛
- ウエス
- ワグナー
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット
- ガストーチ
- ブロワー
- グラインダー
- 平面研磨砥石#36・#80
- ダイヤカップ

準備する材料

- リペレジ
- リペライニング
- Cリペカラー
- トーンカラー
- 水
- セメント用プライマー（ロイヤルW21を水で20倍程度に希釈したもの等）

■施工の注意点

- ・ リペレジシリーズはプレミックスタイプの補修材です。水だけで練って下さい。強度を増すために接着剤等を混入した場合、硬化時間・色が設定と異なる場合がありますのでご注意下さい。
- ・ 水で練り混ぜた物は残さず全部使用して下さい。**硬化が始まってからの再加水・練り返しはしないで下さい。**クラック・接着不良の原因となります。
- ・ セメント系ですので、風化・吸湿性があります。保存には充分注意しなるべく早めにご使用下さい。（5kg内袋は、保存性を良くするためヒートシールしてあります。さらに、輪ゴムが袋に入っていますので、使い残した物の封にご利用下さい。）
- ・ 補修の際は下地の余分な凹凸は予めハンマー・チス・スクレーパー等で取り除き、掃除をして下さい。離型剤が表面に残っている場合は特に剥がれ易くなります。ブラシ等で補修面を擦り、水湿すると効果的です。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ Cリペライニング、Cリペカラー等に記載されている**注意書きを必ずお読みください。**
- ・ Cリペカラーに混和液を混入後は、24時間以内に使い切ってください。
- ・ 吹付けする際、付着すると困るような箇所には予め養生してください。
万が一付着したら水で濡らしたウエスで拭き取ってください。
- ・ Cリペカラーは使用する際、しっかりと混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ Cリペカラーは**少しずつ薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥…』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは規則的に叩くと違和感がでてしまうので周囲の模様を参考に自然な風合いに一定になるよう軽く叩いてください。

■ 施工方法

1 施工前

施工前
深さ0～20mm以下の軽微なジャンカ



2 下地塗り

セメント用プライマーで水湿し、リペレジを塗り込む。削って面を出すためにプラス目に塗っておく。



3 削り

硬化が始まるとスクレーパーで余分な材料を削り取る。
広い面積の場合は材料を完全に硬化させ平面研磨砥石#80を使った方が綺麗な面が出せます。



4

綺麗に平面が出た状態。



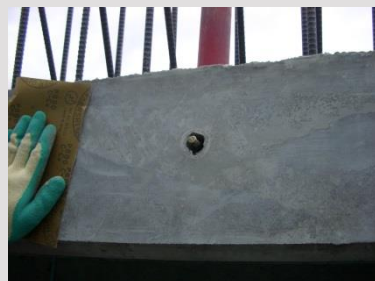
5 素地調整

完全に乾燥させた後、セメント用プライマーを全体に薄く付け、Cリペライニングをコテで薄くしごきます。
※再白華防止と境界線のボカシ、色の乗りが良くなります。



6 こすり

乾いたら#600ペーパーで全体をこすり、境界線になるべく消します。



7 ベース色合わせ

Cリペカラーを少しずつ吹き重ね、下地の境界線をぼかすと同時に全体の色を整えます。
※Cリペカラーの色調整はトーンカラーや他のCリペカラーと混ぜ、周囲の明るい色に合わせるとよいでしょう。



8 模様付け

水で薄めたトーンカラーを数種類用意し、模様付けパットで少しずつ模様を付けていきます。
薄い色から順に付けていくと合わせやすいです。



9 施工完了

#600ペーパーで軽くこすったり、なじませながら周囲と違和感がなくなれば完了です。



準備する物

- 小バケツ
- 練り用金コテ
- ライニング材用金コテ
- ボール
- スクレーパー
- 耐水ペーパー #600
- 刷毛
- ウェス
- コンプレッサー
- エアホース
- エアガン
- 模様付けパット

準備する材料

- リペレジ
- セメント用プライマー(ロイヤルW21を水で20倍程度希釈したもの等)
- Cリペライニング
- 水
- Cリペカラー
- トーンカラー

■施工の注意点

- ・ 補修箇所の余分な部分は予めハンマー、チス等で取り除いてください。
- ・ スクレーパーや金コテで手を切る恐れがありますので扱いにご注意ください。
- ・ プライマー、吹付け材等に記載されている**注意書きを必ずお読みください**。
- ・ 吹付ける際、予め周囲の付着したくない箇所は養生してください。
もし付着してしまった場合、水で濡らしたウェスで吹き取ってください。
- ・ 吹付け材は使用する際、よく混ぜてご使用ください。
混ざりきっていないとムラができる場合がございます。
- ・ 吹付け材は**薄く吹き重ねるように**吹付けてください。
一度に厚く吹きますと水滴が垂れてしまい仕上がりが悪くなってしまいます。
『吹付け→乾燥→吹付け→乾燥』と下地が見えなくなるまで繰り返してください。
- ・ 模様付けは一定に叩くと違和感がでてしまうので一定にならないよう軽く叩いてください。